

日韓共同理工系学部留学生プログラム報告(2016年4月～2017年3月)

副島 健治

1 はじめに

1998年の日韓首脳会議における「21世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ」構築の合意に基づき、具体的な行動計画として「日韓共同理工系学部留学生事業」が立ち上げられた。この事業は、韓国で選抜された高校卒業生を留学生として日本の国立大学の理工系学部が受け入れるプログラムである。1999年に第一期生の募集が開始され10年間の第1次事業を経て、2009年の募集から新たな第2次事業が行われており、次の第3次事業が検討されている。富山大学はこれまでにこのプログラムに基づく留学生(以下、「日韓生」とする)をのべ9人受け入れた。

2 2016年度の本事業による富山大学への学生配置について

2016年度の富山大学への日韓生の新たな配置はなかった。

3 富山大学配置の在籍日韓生

富山大学としてこれまでに9人の日韓生を受け入れた実績はあるが、第一次事業第10期生2人(理学部1人、工学部1人)が2014年3月に卒業して以降、本学には日韓生はいなくなっている。また、上述のように本学への新たな配置もなかった。

4 日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング

本学における日韓共同理工系学部留学生事業による日韓生の受入れの準備と円滑な遂行のために「日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング」(以下、「日韓WG」とする。)が2001年4月に立ち上げられ、異動に伴うメンバーの交代を経ながら現在に至っている。2016年度のメンバーは倉光英樹(理学部教員、日韓WG座長)、柿崎充(理学部教員)、柴田啓司(工学部教員)、バハウ・サイモン・ピーター(国際交流センター教員)、副島健治(国際交流センター教員)、そして事務から国際部留学支援課の事務スタッフを加えて構成されている。

2016年度は、富山大学として日韓プログラム推進フェア(後述)に直接参加をしなかったため、日韓WGのメンバーが集合して活動をするには特になかったが、日韓共同理工系学部留学生事業協議会への参加および情報共有等のためのWGメンバーへのメールあるいは電話による連絡調整が行われた。

5 日韓共同理工系学部留学生事業協議会

本事業参加の国立大学の全国協議会が2016年度は下記の日時・場所で開催され、本学からはWGメンバーの柿崎充教員(理学部)と柴田啓司教員(工学部)が参加し、報告した。

日時：2016年6月24日(金) 13:00～17:00

場所：千葉大学けやき会館 レセプションホール

(情報交換会：17:10～18:30、会場：千葉大学けやき会館 レストラン「コルザ」)

6 日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア

本事業の2016年度第2次第8期選抜の筆記試験合格者とその保護者および関係者を対象として、2016年9月4日(日)9:30～16:00に大韓民国国立国際教育院(韓国ソウル)において、日韓共同理工系学部留学生事業推進フェアが開催され、本学は、資料提出のみによる参加をした。

7 おわりに

本事業は1999年より当初10年計画で開始され、現在も第2次事業として継続されており、次の第3次事業も検討されているところである。日韓生を受け入れようとする日本の国立大学は、自大学が進学希望大学として日韓生候補者に選ばれるように努力しなければならない、しかもそのためにできることはそれほど多くはない。実際には、前述のフェアがその努力を傾注すべきほぼ唯一の機会となっている。そして日韓生候補生が進学を希望する日本の大学は、旧帝大などネームバリューのある大学に集中しがちで、実際には日韓生の配置はそのような大学に偏る傾向があるのが現状である。

諸般の事情から2016年度のフェアには、本学は直接の参加をしなかった。2011年度以降本学への配置がゼロという現実において、フェア参加にかかる費用の問題もあり、理学部と工学部の意向を踏まえそのような決断に至ったのであるが、今後の見通しは厳しいと言わざるを得ない。